



だより



R8.6.23 Vol.12

なぜ私はデジタルを目の敵にしているんでしょう？

この便りを書きながら、「私ってデジタルが嫌いなんだろう？」と考えることがあります。そんな内容が多いですね。私自身はその恩恵を十分に受けているのに…。理由の一つにネット記事のタイトルがありました。「〇〇さん主演の△△が泥沼化！」よく見ませんか？まるで〇〇さんが問題を起こしているように感じさせます。内容を読むと△△が泥沼化しているだけで〇〇さんは全く関係がない。動画配信のサムネイルやタイトルでも同じような傾向が見受けられます。いわゆるクリックベイトです。

判断力が育ち切っていない子供たちにそんな主語のすり替え等の表現を真に受けてほしくないし、もっと言うとなんな技法を学んでほしいとも思いません。だからこそ情報の取捨選択能力の育成も叫ばれています。が、微力ですが、今、触れなくていいものなら距離を取りませんか？という提案があってもいいじゃないかと思うのです。

ご意見ありがとうございます。

ある保護者の方と話す機会がありました。「スリットの入った服や授業中のスマホ撮影はなぜだめなんですか？」そう尋ねられました。まず率直に聞いていただいたことに感謝です。理由は便りや配布文書でお伝えした通りですが、そう尋ねていただくことで学校の考えをより詳しく伝えることができます。数年前から”ブラック校則”が話題になり、時代に合わないものや慣例だけが残っているものは、見直すべきだと私も考えています。今回の件についても、流行や社会の変化は十分に承知しています。そのうえで、学校として子供を預かっている立場から安易に流れに乗ったり、「あとは保護者判断で！」と丸投げしたりするのではなく、校長として、こうありたい、こうしていきたいということを提案しました。これからも気軽にご意見ください。一緒に考え、改善していきましょう。

四方山話松蔭 ver. 其の十二(職場を腐らせる人たち)

精神科医である著者が、患者さんのケースを基にして綴られている本を手にとってみました。

そこには、職場の雰囲気悪くしてしまう行動の傾向として、『言われたことしかやらない人』『他人のせいにする人』『相手によって態度を変える人』等、15のタイプが紹介されていました。

私が今の立場になって、常に考えるのは、『子供たちが毎日楽しく過ごせる学校とはどんな学校か？』ということです。そしてそんな学校を作っていきたいと考えています。

しかし私一人の力など、たかが知れています。チーム松蔭で取り組む必要があります。その一員である職員が楽しくないと感じる職場で子供たちが楽しく過ごす空間は作れません。私自身が「職場を腐らせる上司」になっていないか？そのチェックがしたくて読んだ書籍でもありました。『今のところ大丈夫じゃない？かなあ？』と甘い自己評価をしていますが、こればかりは、確かめようがありません。「僕は校長としてどう？」なんて聞いたところで、生成AIよろしく忖度バイアスいっぱい「え？ええ。だ、大丈夫です…。」なんて上滑りなやりとりになるだけでしょう。(笑)常に自分には厳しくありたいなと思います。

そしてこの本を読んでいて感じたもう一つのこと、「そんな子供を育てていないか？」本の中で紹介されている上司、若手社員、人というワードを子供に置き換えて眺めてみました。親として教師として子供を育てていく上で、大切にしたい価値がいくつも見えてきました。一度話題にしましたが、年齢による大人と子供の境界はありますが、一人一人の子供に、今日から大人だよ！というスイッチはありません。日々の積み重ねが子供のより良い将来につながりますね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。